☆世界同時革命・世界革命戦争
世界プロレタリア独裁
共産主義勝利！
共産主義者同盟

2月10日
第51号
編集発行人　南　安明
一部　30円
開封12回　500円24回1000円
密封〃　600円〃1200円

蜂起

蜂起社
発行所　蜂起社
渋谷区広尾5の16の1
北村第一ビル内
TEL 03(446) 0832
(振替) 東京 1512

2・8　法制審粉砕闘争　正午　霞ケ関
2・19　アヤメ第10回裁判闘争　PM0:30　日比谷小公園―地裁
3・1　法制審粉砕闘争　正午　霞ケ関

4 建軍こそ過渡期世界党の本質 7

共産主義革命戦争

地下組織戦に耐え抜いた組織力を更なる非合法党建設へ

われわれは、軍を組織する過渡期世界党を建設するという目的意識性を確信していたし、軍を組織することが過渡期世界党にとって本質であると確信している。

「軍を組織するということは、過渡期世界党にとって、組織の本質をなすものである。軍をたなから切断された過渡期世界党における共産主義政治はない。

過渡期世界の現在において、軍を党の部分と考え、武装闘争を共産主義政治の部分と考えることは眠りである」（蜂起No48）

この確信こそが、蜂起戦争派総体の中で自己の敗北を押えつつもあくまでも、軍を組織する過渡期世界党の原型形態を獲得する下向の過程＝原体験として総括することが出来た。そして、この原体験視座を確固たるものとして、建軍を軸として、建労闘争と共産主義政治を展開するもののみが、軍事を共産主義政治の機能主義＝共産主義政治を戦線政治一般に溶解させる未熟運動主義と対決できるのである。

即ち――

（一）過渡期世界党を構築するという建党建軍の目的意識性と、

（二）過渡期世界党にとって軍を組織することが組織にとって本質であるという原則と、

（三）原体験視座から敗北を総括するという視座と

以上の三点は一体不可分なものである。

われ われはこの（一）（二）（三）を、党を綱領＝戦略＝組織の一体的に措定するところから把握してきた。即ち――

①本質的綱領的措定

②歴史的戦略的措定

③現実的計画的措定

によってマルクスの党、レーニンの党、に対する過渡期世界党の位置を確認した。

そして、過渡期世界党が軍隊を組織する原則的視座を国際階級闘争の三つの教訓に学んだ。即ち――

（イ）ブレスリトフスク講和の犠牲的な総括としてレーニン党（軍をもたない）の限界を総括しなおし、

（ロ）30年代ヨーロッパの敗北主義で軍事路線を物質化した共産主義者同盟（トロツキー）の統一戦線ゾヴェート論の批判としてトロツキーの総括をスターリン社会ファシズム論の批判として共産党の「人民戦線」戦略から（b）権力奪取の問題に関しては前段階民戦戦略から（b）権力論としてはファシスト人民戦線派との三回戦から（c）組織論としては革命軍を組織することが出来なかったことから総括しなおし、

（ハ）過渡期世界で唯一勝利した毛沢東党の党＝紅軍＝解放区の総括を通じて、そこから軍を組織することが出来なかったことを総括したのである。

我々は六〇年代後半の綱領的既成党の総括をスターリン社会ファシズム論の批判としてトロツキーの統一戦線ゾヴェート論の上に構築したことを、改めて、過渡期世界論から把握し直したこと。そして、（a）戦略的には前段階民戦戦略から（b）権力論としては「歴史的戦略的措定」から深化しなければならなかったのである。

言葉を変えていうなら「共産主義」において政治と軍事とは何であるか、そこから軍を組織することが出来なかったことを総括しているのである。

だが、我々の把えた側面は、いまだ「歴史的戦略的措定」から把握しきれていない。

「本質的綱領的措定」から把握しなければならない。

我々は六〇年代後半の綱領的既成党の総括をスターリン社会ファシズム論の批判としてトロツキーの統一戦線ゾヴェート論の上に構築したことを改めて、過渡期世界論から把握し直したこと。そして、（a）戦略的には前段階民戦戦略から（b）権力論としてはファシスト人民戦線派との三回戦から（c）組織論としては革命軍を組織することが出来なかったことから総括しなおし、

（ハ）過渡期世界で唯一勝利した毛沢東党の党＝紅軍＝解放区の総括をスターリン社会ファシズム論の批判としてトロツキーの統一戦線ゾヴェート論の上に構築したことを改めて、過渡期世界論から把握し直したこと。そして、（a）戦略的には前段階民戦戦略から（b）権力論としては「歴史的戦略的措定」から深化しなければならない。

我々は六〇年代後半の綱領的既成党の総括をスターリン社会ファシズム論の批判としてトロツキーの統一戦線ゾヴェート論の上に構築したことを改めて、過渡期世界論から把握し直したこと。そして、（a）戦略的には前段階民戦戦略から（b）権力論としては「歴史的戦略的措定」から深化しなければならない。

「本質的綱領的措定」から把握しなければならない。

（毛沢東）

したがってまた、過渡期世界における共産主義の軍事と政治は、共産主義の政治と軍事は何であるか、そこから軍を組織することが出来なかったことを総括しているのである。

言葉を変えていうなら「共産主義」において政治と軍事とは何であるか、そこから軍を組織することが出来なかったことを総括しているのである。

だが、我々の把えた側面は、いまだ「歴史的戦略的措定」から把握しきれていない。

「本質的綱領的措定」から把握しなければならない。

（毛沢東）

したがってまた、過渡期世界における共産主義の軍事と政治は、共産主義の政治と軍事とは

超長期勾留を糾弾 獄中戦士と連帯せよ

反弾圧医療委員会

下部構造の不安等発展による スミマニアン体制の崩壊後、更に対立、抗争を激化させつつある帝国主義列強は国際「通貨」危機「石油危機」として矛盾を一層鮮明にしている。

その中にあって日帝は国際的な下部構造の危機を自己の緩衝負担で延命の策を講じ、その矛盾を内外のプロレタリア人民の収奪と抑圧の強化で押さえつつ、日帝独自の侵略反革命路線を押し進めている。

この日帝の収奪と抑圧の強化に対し、日帝に真向から対決するものとして下層プロレタリアートのたたかい、そして東南アジア人民の蜂起があり、インドシナ人民の怒りが噴出し、国際的同時闘争はあらたな高揚をむかえている。

この様な情勢にあって日帝先アメ権力はこの噴出する階級の怒りを予防的先行的に弾圧せんがために「過激派」＝民闘を封じ込める重点として7月アパートローラー3月法制審答申の攻撃をかけ、破防法・保安処分体制として治安弾圧体制を一層強力している。

先アメ権力の弾圧のエスカレートに対し、医療救援闘争も階級闘争の鋭烈な攻防局面に規定され、従来の大衆武装闘争のパターンを止揚した運動の内実が問われた。

それは封じ込められた軍事の革命的軍事を突破するたたかいに応え、権力の虐殺、拷問、フレームアップ策動を粉砕し、広範な諸勢力と共に有効な反撃を組織することでなければならない。

昨年3月、破弾闘の一部として組織された反弾圧医療救援委員会結成主旨は、現下の階級闘争に連帯し、従来の大衆武装闘争のその都度即目的に組織する医療救援のパターンを揚し権力の弾圧に即座に反撃できる組織的対応をしなければならない。現在的には四つの課題を押し込め、とりわけ過激派抹殺策動の一環としてある拘置所『医療』に対して獄中戦士に連帯する側からの医療を保証し、反弾圧諸戦線の連携を深めながら、広範な反弾圧医療救援闘争を担うものとして結成された。そして弾圧に抗し、獄中戦士と連帯し、この闘争目的の闘いを展開してきた。

つまり獄中戦士に対する医療接見活動、闘う側からの文書交流への立ち会い、正式に治療が必要な諸君への保釈要求等を展開してきたのであった。

そして医療委員会の活動の中軸の一つとなす獄中医療を保証するべく、医療指針のために獄中戦士に対し一斉医療アンケートを実施した。

この第一回の医療アンケートに対し、多くの獄中戦士からの回答があり、獄中闘争において医療問題がいかに重大であり、かつ権力の医療「対策」が極めてずさんであり、戦士諸君は著しく健康を害している実態が明らかになった。

このアンケートを整理してみると、所謂ほとんどの獄中戦士の身体をむしばんでいることに注意しなければならない。

また中核派の一部は勾留生活の特殊性と起因しているものの、栄養不足、無理な長時間にわたる姿勢、房内の明るさ、寒さ等系統的な運動の形成、武装闘争に支持、連帯する方向に力を注ぎつつ、権力の弾圧の絆を断ち切ることを第一義的に感じることを第一義的に感じることを第一義的に感じ